

マイナス金利解除、運用戦略は 国内債券積み増し オールニッポン・アセットマネジメント社長 永野竜樹氏

2024/3/20付 | 日本経済新聞 朝刊

日銀が19日、大規模緩和の解除を決めて市場は大きな節目を迎えた。「金利ある世界」へと向かおうとする中、今後の展望や運用戦略への方向性について関係者らに聞いた。

(1面参照)



金利が復活したことを受けて、国内債券の積み増しを検討したい。金利変動にあわせて機動的に売買することで収益獲得を目指す。マイナス金利解除後も国内株式については引き続き堅調な環境が続く。強気な見通しを継続する予定だ。

今回、日銀は金融緩和の枠組みを大規模に変更しつつ「緩和的な金融緩和」を続ける方針を示した。市場では急激な金利上昇（債券価格は下落）への懸念は広がらず、一定の安心感が広がった。国債の買い入れ額もこれまでと同程度と示したことで、国債の需給が崩れるといった市場参加者の不安も和らいだはずだ。

マイナス金利を解除したことで米金利上昇の影響を受けやすくなる可能性がある。米国の利下げ期待は後退している。米金利には上昇圧力がかかっている。米金利の上昇につれて国内の長期金利も夏ごろには1.2~1.3%程度まで上昇する可能性がある。



今回の決定は地方銀行を含め金融機関のALM（資産・負債の総合管理）にも大きな影響を与えるだろう。

今後も地方銀行など金融機関の有価証券運用ニーズは変わらないとみている。貸し出し金利は上昇しても企業の資金調達ニーズが拡大するわけではない。日本の国債や社債に資金が戻る動きは今後も続くとしている。

許諾番号30098218 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.